

平成30年度 第1回豊橋市図書館協議会 会議要録

日時	平成30年5月23日（水） 14:00～15:30
場所	豊橋市中央図書館 会議室
委員	出席定数11名 うち10名出席
事務局	豊橋市教育委員会教育部長 図書館11名 都市計画部まちなか図書館整備推進室2名
議事	議題 (1) 平成29年度図書館利用状況について (2) 平成30年度豊橋市図書館資料収集方針について (3) 豊橋市まちなか図書館（仮称）について (4) 豊橋市図書館基本構想の策定について
配布資料	・平成29年度図書館利用状況について ・平成30年度豊橋市図書館資料収集方針について ・豊橋市まちなか図書館（仮称）について ・豊橋市図書館基本構想の策定について

＜議事概要＞

（1）平成29年度図書館利用状況について

事務局より、配布資料に基づき説明。各委員より以下の意見・質問があった。

【委員】

向山と大清水が伸びている要因は。

（事務局）

向山は29年度に文化会館開館50周年記念行事が重なっていたのが、増えている要因と思う。文化会館が50周年、それとともに中央図書館の前身の図書館が開館して50年たったということで色々な記念行事を行ったことが大きな要因です。

【委員】

中央図書館では度々イベントを行っていて、向山や大清水はそれに比べてイベント回数は少ないが微増している。しかし中央図書館は5年間で15%位じわじわと減っている。何か問題があるのではないか。対策は。

（事務局）

やはり、活字離れ、本離れが進んでいるのではないかと思う。大清水図書館ができたことで利用者がそちらに移っていることも認識している。イベントを行って利用者を増やすことも一つだが、やはり中央図書館の魅力を訴えていきたい。今の下がっている現状は分析して次の対策を考えていきたい。

【委員】

イベントというより、PRを。中央図書館には中央図書館の良さがあると思うので。

【委員】

大清水図書館の入館者数は30万とかなり多いが、実際の図書の利用者は6万1千人。複合施設なのでほかの施設を利用した人が利用者数にカウントされているということか。

(事務局)

中央図書館だと図書館にしか目的がないが、複合施設ならではことだが例えば窓口センターを利用した人が、ついでに図書館をのぞいていくとか、地区市民館を利用した人が図書館をのぞいていくとか、相乗効果が明らかに出てくる。

入館者数については、入口のセンサーによるカウント数、利用者数については図書を借りた人の延べ人数を表している。

(事務局)

大清水は複合施設であって、生涯学習機能もかねているが、ミナクル全体のところのセンサーではなく、図書館と窓口センターの前に雑誌コーナーがあり、そこに入るところのセンサーを通過した数になるので、厳密にいうと窓口センターのみの利用者も含まれることになる。そこで本を読む読まないというのは区別できない。

6万1千人は本を借りた人なので、そう意味でいうと、借りるだけでなく、本を読むという利用の仕方、くつろぐために時間を過ごしにくるといった方がほかの館より多いと認識している。

【委員】

この数字をみると大清水は向山とほぼ同じくらいの利用かと思う。実際の入館者数も半分くらいの15万人位が妥当な数字ではないかと思う。実際にカウントできないでどうにもならないが、それ位でみておいた方がいいと思う。

【委員】

窓口センターの利用者数をみればわかるのではないか。主目的が何なのか。

(事務局)

向山の場合は閲覧とかくつろぐスペースが狭隘なため、そういう意味で、学習のため

に図書館を訪れているというのは、大清水はカウントしているので、そういったところは違いが出ていると思う。

【委員】

前回の会議の時に話題になっていた向山図書館のことを考えていったときに、これが小さい図書館かどうか考えるときに、気になって質問した。

(2) 平成30年度豊橋市図書館資料収集方針について

事務局より、配布資料に基づき説明。各委員より以下の意見・質問があった。

【委員】

重点目標について向山図書館が話題になりつつある時に、資料収集の重点目標が、大清水は記載があるが、向山については全く記載がない。今日の会議のためにインターネットで「豊橋市図書館の基本的な考え方」を見なおしてきた。向山の配本という機能、それ以外の機能も記載されているのだが、この重点目標にあげてないというのは、あえてフェイドアウトしようとしているのがうかがえるように感じる。資料収集についても分館としての立場を記載して何だかの考え方を示した方がいい。

(事務局)

施設の特色等を含めて再考したい。

(事務局)

大清水についてあえて入れてあるのは、平成27年度に開館したばかりなので、これから地元の人にも利用していただいて大きく動いていくべき分館の一つであるということで、まだ発展途上なので今の段階では名前が挙げてある。

【委員】

市民のニーズを的確に把握する方法というのは。

(事務局)

あと構想等でもでてくるが、利用者のアンケートを毎年とっており、その変化というものをみていきたいと思う。あと今年度一般市民に対するアンケートを行っていく。

(3) 豊橋市まちなか図書館（仮称）について

まちなか図書館整備推進室より、配布資料に基づき説明。各委員より以下の意見・質問があった。

【委員】

市民の方の要望だが、駐輪場のバイクの問題で、自転車を置く駐輪場は駅周辺にたくさんある。原付バイクを置く駐輪場もある。自動二輪を置く駐輪場は駅周辺にほとんどない。実際に駅周辺に7台分位しかないという話を聞いた。機会があれば是非言ってほしい。

(まちなか図書館整備推進室)

最近、原付2種、スクーターの少し大きいものがすごく増えている。駐輪場は建設省がやつていて、城海津の跨線橋のところに増設して自動二輪がとめられるようにしたのが約7台位。それからそれでは足りないので、今一生懸命場所を探していると聞いている。今回新しくできる図書館のところに自動二輪が止められるスペースが何台分というのを全体の中で考えなければならないが、必要であるという認識は持っている。

それから、これは未確認であるが、城海津の跨線橋の下のスペースに飲食店が入っていて、耐震(工事)をやるときに、出てもらつて今空いているスペースがある。そういうところを使って自動二輪の駐輪場を設置してもいいというのは聞いたことがある。

いずれにしてもそこの対話ができていなかった。自転車を歩道に止めたりする人がいる。そうすると、取締にあって、逆にお買い物に来てくれなくなるという状況があるので、我々も一緒になって考えているところである。

【委員】

まちなか図書館のランニングコストは相当と書いてあるのだが、どのくらいなのか。

(まちなか図書館整備推進室)

数字が独り歩きしてはいけないので、今は具体的には示してはないが、相当かかる。人件費が一番かかり、9時から夜の10時まで開くとなると、シフトを組んでやらなければならぬが、相当なお金がかかる。その時に考えなければならないのは、コストを圧縮するという考え方もあるが、図書館としてパフォーマンスを上げていくということにも取り組んでいかなければならぬ。先ほど図書館長がもっと来てもらえるような魅力をつくっていきたいというのを、どういったサービスを具体化していく、この図書館があつてよかつたと思ってもらえるように、満足度を高めながらやっていく必要がある。何かいいパフォーマンスが生まれてくるようであれば、そこに係るコストというのではなくて、投資であるはずである。いずれにしても財政部局から見ると図書館は金食い虫だと言われたことがあるが、そう言わせないことが図書館側の姿勢としては大事である。

【委員】

まちなか図書館の生き立ちそのものが、まちなかの活性化するときに、何を持ってくるかということで、再開発事業ということで出てきて、公共施設をもつてこようというのがあつて、公共施設の中でどんなものが一番いいのかということで、たまたま図書館の基本

構想の中にあった、東口に図書館の分館をつくろうというのが、まちなかの公共施設をつくるという考え方方が合致して、まちなか図書館が生まれたということだが、すべてを図書館の費用だと言われてしまうと、金食い虫ということになるが、まちなかの活性化のための投資だということ、そういう色分けをして考えていかないと、相当の費用がかかるので他を切れということになり、全体を縮められることになる。あくまで必要な図書館としての考え方を確保しておいて、それ以外のかかるものはまちなかの活性化とか魅力づくりとか、そういった意味の考え方を取り入れていかないと無理だと思う。

(まちなか図書館整備推進室)

決して市街地の活性化のために図書館をもってきたのが第一の目的ではない。今全国的に図書館バブルで盛り上がりをもってて、駅前を何とか活性化しなければならないから図書館をつくろうという議論が全国的に結構ある。我々としては図書館というのはまちに役に立つ施設で、駅前にあると便利であるということで、では駅前に図書館をつくろうという計画がもともとあった。それによって、それによって来た人たちがまちに出てもらえば、結果的に活性化していくというロジックで組み立てをしてきた。それから図書館とまちなか活性化の予算の切り分けについて、一般の人からみれば全く分からない話で、役所的な感覚と思うが、図書館というものを従来型の図書館ではなくて、もっと付加価値の高いものにしていくと、それだけで図書館費などの何なのという議論になっていくと思う。今回つくる基本構想の中で図書館というのは自治体とかまちにとって何であるのかということを明確に示していく必要がある。

【委員】

50万人を目標にしているというので、50万人も入れ込みがあれば、図書館に来た人もまちに散らばっていき、まちなかに来た人も図書館へ来るという相乗効果があると思うが、この50万人の根拠は。

(まちなか図書館整備推進室)

何もない。

【委員】

何もなくてここに書くというのは、それだけで全体を進めていくのは非常に心配なのが。

(まちなか図書館整備推進室)

一言言わせてもらうと、50万から70万と書いてあると思う。想定入館者数というのは100万にしようか150万にしようかと何かわかりもしないのに何か根拠をつくり、数字を積み上げていって、結果150万だったので正解だったとか、はずれてしまったというだけの世界だと思う。だからある程度増えるというのはほかの都市の駅前に

できた図書館をみると、一定数増えるというのは確かだらうと。というのを頭に置きながら、数字というのをあまり積み上げて根拠をつくるということは、今回はやめようという判断をした。駅前につくるとさらにサービスをつくって新たな需要を掘り起こしていくと、50万から70万はいくという希望的な数を示した。

【委員】

50万というには、スタートがあると思う。何かないと50万というのはでてこないと思う。

(まちなか図書館整備推進室)

それはある。根拠というか、もとの数字は中央図書館。中央図書館が駅前にあればそれ以上は来るという考え方。

【委員】

中央図書館は50万いっていない。中央図書館に勝る数字がでて、蔵書も10万冊と中央に比べ少ないが、駐車場とともに色々あって、駅前は公共交通機関を利用してということになるが本当にこれだけの人が来るのかと心配している。本を借りる借りないではなくて、そこに足を運んで休暇を楽しんでという人も入ってきて、それらも含めてのことと思うが計画をつくって、金ばかりかけたけど、客が全然来ないということになるのが一番心配。

(まちなか図書館整備推進室)

今は何も全く証明できるものがなくて、先ほどの説明で根拠を積み上げていけば、100万人ということも150万人という数字もできる。こういうサービスをしていきます、新たな需要を掘り起こしていきます、と我々は丁寧に説明してきた。それを理解していただくとか見届けていこうと思う。ここで発言しているのは個人としてではなく組織を代表して発言している。豊橋市全体として組織としての責任ある発言であると受け止めていただきたい。

【委員】

個人としての意見だが、詳しいことはよくわからないが、今までの市がやってきたことをみていくと、ここにここがオープンする時にもそんなに人が来るのか、と最初は思った。

しかし駅方向から爺さんから婆さんから、土日は若いお父さんが手を繋いでこどもをどんどん連れてくる光景を見た。それがだんだんしり上がりに膨れていって賑やかになっていく。魅力的な施設の使い方をさらに積み上げていってたくさん的人が利用するいい手本になっている。プラットも最初はもの珍しくて見に行ったりとしていたが、1年2年と積み上げていく中でよりいい内容のものがここで上演されるようになって、市民としてはうれしい。ここ数年そういうものをみてきてるので、まちなか図書館は老若男女いろんな人が使って間口がとても広い利用の場である。なので金食い虫かもしれない

いが特定の人だけではなく誰でも使えるということを考えるとここにお金をかけることは別に悪くないなと私は思う。過去のいい例を根拠にこれらの数字は「希望」として、是非していきたいという数字で、そのためにはどういうことをしたらいいかということを、いろんな人と話をしたり、いろんな人に関心をもっていただいて、新しいタイプのみんなの施設としてやっていければいい。最初から図書館が目的ではなく、違った目的で行ってもよくて、普段図書館になかなか行っていなかった人が、ここの図書館ならちょっと寄っていこうかなとまた広がっていくことになっていくといいと思う。皆さんがあざ山使っていただければ、見合うだけのコストと理解いただけると思う。

【委員】

市民館に図書室があるが、設備のところで、ミルクとかおむつとかを交換したりするところが大分多くの施設でできてきているが、ベビーカーを置くところがない。若いお母さんとか端っこにとめたりとかしているが、つくっていただければこどもたちを連れてどんどん来るのではないか。

(まちなか図書館整備推進室)

設計をしている時にそこはチェックしている。最近全国いろんな図書館に行くようになっているが、新しい図書館にはほぼベビーカー置場はある。ものすごくあざ山のベビーカーが置かれている。ベビーカーのユーザーは公共交通機関で来られない。車で来ると、まちなかにあっても車で来やすいサービスとか環境を整えていかなければならない。それが駐車券のサービスとか考えていかなければならない。

【委員】

ここで話し合いをしている人は、基本的には本好きな人が来ている。図書館にいくのは当たり前だという人が話をしている。最近の若い人には本なんて全く読まない人がいっぱいいる。そういう人たちに図書館というものが本当に人を集めための核になるようなものになっていくのか、となつたときにものすごい予算を使って、それを維持していくことを説明できるかという危惧はある。ただ所謂従来型の図書館とは違う、蔵書は少ないかもしれないが、そのほかのことが楽しめるということが何となく説明がつくかなという気がする。

(まちなか図書館整備推進室)

やはり、学ぶことは大切で、決して本からだけではなくて、人も資料であると思う。例えばいろんな経験とか活動されてきた方から話を聴いたりするのもとても重要なことだと思う。この東三河で活躍されている方もごまんといいる。新しい取り組みをされている方もいたりとか、そういった人をどんどん登用して講演会をやるとか、ワークショップをやるとか、それに関連する本をおいてもいいと思うし、仮に本がなくてもそれに参加すると、新しい需要を掘り起こしていく。講演会とかワークショップが何か地域の課

題を解決していくものに繋がっていくというようなイメージは持ってもいいと思う。本を読んでよかったということから、勉強になった。これからは自分もこんなことを行動に移してみよう、というところまでやっていく必要がある。今後難しい時代になっていく。少子化とか高齢化とか人口減少している。経済は少し上向いているが、地方都市のあり方というものを考えていく場になればいいと思う。

【委員】

図書館という言葉が前面に出すぎている。たまたま行ったら本が借りられるくらいでいい。全体で大きなまちなか交流館でないけれども、みんなが来やすい施設としてそういう位置付けにおいて、図書館も図書もそれなりにあるということではいけないのか。

(まちなか図書館整備推進室)

それがまちなか図書館ではなくて、豊橋の図書館がそういうもので、中央館はこういう特色、まちなか図書館はこういう特色という形にしたい。思うのは図書館というものは全体的なイメージとして変わっていくべきだと思う。その上で中央館は今まで築いてきた少しアカデミックで貴重な地域資料を集めてきた特色を生かしている。まちなか図書館はもう少しカジュアルで地域の活動に目を向けたものであるという特色をしている。今まで図書館というネットワークを含めたものがもう少し付加価値の高いものにしていかないと、図書館というものが何となく重荷になっていくイメージがもたれていく。まちなか図書館をこうしていくというだけの話ではなく、図書館全体を変えていく中で位置付け、役割を変えていった方がいい。

【委員】

図書館全体を変えていくというのも考え方としてあると思うが、たまたまアプローチの仕方で、図書館側からアプローチするのとまちづくりの観点からアプローチするのでは違うと思う。何度も言うがまちづくりの話から図書というものもあって、全体の図書館の中に位置づけられているけれども、実際はまちなかのということで、そういう考え方でいえば、何が何でも図書館と言わなくともいいような気がする。

(まちなか図書館整備推進室)

図書館について決めはない。図書館法はいろんなことが書いてあるようだが図書館は本だけでなければならないとは書いていない。日本の歴史をたどってみると図書館は市民力の開放からスタートしているはず。それは何か力のあるものに抑圧をされてきたいろんな人やものが解き放たれた時代が戦後あったわけで、そういう象徴である。今はそれからもう少しもっと新しい感覚を取り入れていかなければならないという感じがしている。だから負から築きあげていったものを今度は水面下にでてさらに花開いていったような感じであると思う。

(4) 豊橋市図書館基本構想の策定について

【議長】

議題（2）「豊橋市図書館基本構想中間報告（案）について」ですが、本議題は今後、豊橋市及び市議会等において、調整・検討を要する意思形成過程の案件であるため、非公開として行いたいと思いますが、ご異議はございませんか。

【委員】

異議なし

【議長】

異議ございませんので非公開で行います。

事務局より、配布資料に基づき説明。各委員より意見・質問があった。

【委員】

2点ある。ワーキンググループの中に何故図書館が入っていないのか。アドバイザーをお願いした満尾さんという方が地域活性化伝道師という肩書だが、この方は図書館の基本構想ということであった場合、図書館についての見識、素養をお持ちなのか。

（事務局）

1点目、ワーキングに図書館職員は事務局として参加するので、あえて名前はあげていない。2点目、満尾さんは千代田図書館、日比谷図書文化館に携わった経験があり、主に図書館のサービスに精通されている。また本市においてはまちなか図書館の設計の関係でも一部実績がある。

【委員】

議題1の利用者の状況であるとかそういうものも検討して案を作成してもらいたい。最終的に私たちも責任を負うことになるので、なかなか賛成できない内容が出てくると、色々な問題が出てくるので、くれぐれも慎重に考えてほしい。

【委員】

全体にスケジュールが固まっているような部分があるが、既成事実の承認ということになつてはいけない。意見をくみ取っていくところはくみ取ってもらって、市としての方針というのも当然あると思うがその辺もふまえて、つくってほしい。1年でつくる計画のようだが、前回の18年度には喧喧諤諤になり図書館協議会もかなり紛糾したと聞いている。

【委員】

利用者も多くいるので、市民の声、広くみんなの意見を聴いてほしい。